

豊中市若者自立支援計画改訂版（素案）に関する意見募集の結果について

令和4年（2022年）1月11日～1月31日に実施した意見公募手続の結果は下記のとおりです。

（1）集計結果

（1）提出方法別提出人数と意見件数

| | 提出方法 | 提出人数（人） | 意見件数（件） |
|---|-----------|---------|---------|
| 1 | 郵便 | | |
| 2 | ファクシミリ | | |
| 3 | 電子メール | 3 | 3 |
| 4 | 所管課への直接提出 | | |
| 5 | その他 | | |
| | 合計 | 3 | 3 |

（上記以外に、政策等の案の内容とは直接関係のないものはありませんでした。）

（2）市民等の区分別人数

| | 市民等 | 提出人数（人） | 意見件数（件） |
|---|-------------------------|---------|---------|
| ア | 市の区域内に住所を有する者 | 2 | 2 |
| イ | 市の区域内に事務所等を有する個人及び法人等 | 1 | 1 |
| ウ | 市の区域内に存する事務所等に勤務する者 | | |
| エ | 市の区域内に存する学校に在学する者 | | |
| オ | 市税の納税義務者 | | |
| カ | 意見公募手続に係る計画等に利害関係を有するもの | | |
| | 合計 | 3 | 3 |

(2) 提出意見の概要と市の考え方

| No. | 該当箇所 | 提出意見の概要 | 市の考え方 |
|-----|--------------------------|---|--|
| 1 | P62 令和 4 年度以降に施行実施する成果指標 | <p>「若者支援総合相談窓口においては、支援期間が複数年にわたるなど長期化するケースもあることから」と書いてありますが、「長期化」しているというのは具体的にどのような内容なのでしょうか。</p> | <p>相談・支援が長期化しているのは、不登校やひきこもり経験者、メンタル的な課題を有するなど複雑なケースが多く、解決までに時間がかかる傾向にあるためです。また、家族を含めた相談者と信頼関係を築き慎重に対応を進めており、一進一退を繰り返す家族も含めた状況を見守りながら、丁寧かつ慎重に支援を進めていることによるものです。</p> <p>P62 の本文中に、ご意見の趣旨を踏まえ下線部分を追加します。</p> <p>P62 第 1 段落</p> <p><u>若者支援総合相談窓口においては、総合相談窓口化した平成 30 年度以降の新規相談者のうち約 16%が就労や就学につながり、約 9%が状況改善等により支援が終了しています。平均支援期間は約 1 年となっていますが、複数年にわたるケースもあります。これは、不登校やひきこもり経験者、メンタル的な課題を有するなど複雑なケースが多く、家族を含めた相談者と信頼関係を築き慎重に対応を進めており、一進一退を繰り返す家族も含めた状況を見守りながら、丁寧かつ慎重に支援を進めていることによるものです。</u></p> <p>こうした状況をふまえ、相談者の小さな変化を含めた支援の効果を測定し、支援内容を検証するための仕組みづくりに試行的に取り組めます。</p> |

| | | | |
|---|-----------------------------|---|---|
| 2 | 48 ページ上から 3 行目「支援の効果測定」について | <p>これまでの取り組みを踏まえた方向性に賛同します。支援成果の可視化は確かに重要ですが、「復学」「就労」といった分かりやすい「成功モデル」を中心的評価軸として設定することのリスクにも注目すべきだと考えます。その“リスク”とは以下のようなポイントです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「不登校」「ひきこもり」「長期無業」といった状態の背景にある、社会的・構造的な課題を捉えることができない。 <p>→既存の社会システム(復学・就労等)に繋がるのが評価されるため、「既存のシステムそのものに問題・課題があるかもしれない」という仮定に立って支援にあたるのが難しくなってしまう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●上記のような状態では、若者の課題に対して、対症療法的な支援を強化・促進することにつながる。その結果、本質的な課題へのアプローチは軽視され、不登校やひきこもりなどの課題は従来通り先送りされ、長期化・深刻化のリスクが高まる状況は一向に改善されない。 <p>新型コロナ禍以降、従来の社会システムのあり方や機能のエラーがさらに顕著になっていますが、未来を担う子どもや若者たちを育てる地域社会とは？というビジョンを持ち、若者支援の成果指標もそのビジョンに焦点を合わせて策定されるべきではないかと考えます。</p> <p>「家庭環境や社会情勢によって子ども・若者の成長機会や選択肢が喪失されることがない」「子ども・若者たちの可能性を信じてチャレンジを応援できる」地域・社会を市民主体でつくるのだというビジョンをみずえた計画と方針を希望します。</p> | <p>本計画では、若者の社会的自立は、本人やその家族だけではなく、行政をはじめ関係機関や地域など、様々な主体が連携して支えていく事が大切であるとしています。また、復学や就労といったゴールだけでなく、「外出できるようになること」「医療機関とつながること」「支援機関とつながること」など、相談者個々の状況をふまえた目標を設定し、支援を実施する事としております。(P64)</p> <p>今後は、さらに支援過程における相談者の小さな変化を含めた効果を測定し、支援内容を検証するための仕組み作りに取り組めます。</p> |
|---|-----------------------------|---|---|

| | | | |
|----------|--|---|--|
| <p>3</p> | <p>p27 施策の柱1 子ども・若者が自らの心・身体を守ることができる力の育成について</p> | <p>様々な社会的問題を抱えながらも、自立・自律できる成長過程を歩んでほしいと願う中で、やはり身体や心が健康な状態でいられる（支援を含めて）環境を整えることはとても重要だと感じています。</p> <p>インターネットでの情報や不確実な噂話等に惑わされ、判断経験が乏しい成長期の子供たちが「それは友達もやっているから大丈夫だろう」と安易に行ってしまう自分の身体を大切にしない行為に対し、情報発信等で社会環境を変えることも重要ですが、やはり「対話できる環境（居場所）」で関わること、社会の大人と子供の信頼関係を築くことが重要なんだと思います。</p> <p>その方法として、きっかけはお菓子作りやたこやきを作ろうとか映画を観ようとか子供たちの興味のあることで集ってもらい、さりげなく医療関係者や教育関係者が話をざっくばらんにすることが有効だと感じています。あくまでもさりげなく。</p> <p>正しい知識と大人との信頼関係。</p> <p>日常の中でさりげなく健康について伝えていける環境作りをこれからも切に願います。</p> | <p>ご指摘の趣旨につきましては、施策の柱④に内包しておりましたが、明確化するために、施策の柱④「支援の拠点整備と多様な担い手の育成及び担い手の活躍の場づくり」の説明文を、ご意見の趣旨をふまえて修正します。</p> <p>下線部分を追加します。</p> <p>P59 施策の柱④「支援の拠点整備と多様な担い手の育成及び担い手の活躍の場づくり」</p> <p>説明文の最終段落</p> <p>また、困難を有する若者を支援するためには、<u>信頼関係を築きながら、彼らの心情を理解し、～（中略）～、本人の自己選択、自己決定を基本としながら寄り添って支援することや、必要に応じて正しい知識を伝えることが重要であること</u>から、専門性をもった支援者を育成するとともに、活躍できる仕組みづくりに取り組みます。</p> |
|----------|--|---|--|